



災害が教えてくれた 宇治らしいつながり

～京都府南部地域
豪雨災害を経験して～



**宇治市災害ボランティアセンター
宇治市社会福祉協議会(コラボネット宇治)**

『災害が教えてくれた宇治らしいつながり』の発行にあたって



宇治市社会福祉協議会（コラボネット宇治）会長
宇治市災害ボランティアセンター 代表
伊藤 義明

2012年8月13日未明～14日。宇治市災害ボランティアセンターを設置して、4年5か月目のことでした。京都府南部地域豪雨災害が発生し、宇治市災害ボランティアセンターは「災害時」としての活動を初めて経験しました。全国からの個人ボランティア、そして加入団体、府内外の社会福祉協議会や団体の皆さんとともに、25日間の「災害時」での実践活動を行いました。ご尽力をいただいた関係の皆様にご心よりお礼申し上げます。

今回、宇治市社会福祉協議会（コラボネット宇治）と宇治市災害ボランティアセンターで運営した25日間は、「日ごろの関係づくりがあったから」と思い、活動記録を残したいと考えました。

災害は、必ずやってきます。今回の貴重な経験をまとめ、共助、^{きんじょ}近助の支え合いを地域福祉実践と合わせながら、宇治市災害ボランティアセンターの運営をしていく必要があると考えています。



宇治市社協キャラクター
うじピョン

京都府南部地域豪雨災害で宇治市は、大雨による川の決壊、土砂災害、家屋への浸水などがありました。多くのボランティアの皆さんに支えられ、被災された方々への支援を行いました。被災された多くの方から「ボランティアさんが来てくださってよかった。」「ありがとう。」の言葉を聞きました。そんな声を何かの形で残したいと考えました。

そして、初めて経験した「災害時の活動」。多くの方々にかかわっていただきました。また、この災害の経験をお伝えするいく度かの機会の中で、「“常設型”災害ボランティアセンターとは何か」を改めて考えました。

災害がない「いつも」や「日常」のときから、災害について考える機会があったからこそ乗り越えられた「災害時」。「災害時」は、特別ではなく「いつも」や「日常」の延長にあることを、地域や関係する団体の皆さんと一緒に考えることが大切だと教えられました。

今までにかかわっていただいている皆さん、そしてこれからかわりを持っていただきたい皆さんへ。そんな宇治市社会福祉協議会（コラボネット宇治）と宇治市災害ボランティアセンターの、「今まで」と「25日間」と「これから」の思いを知っていただき、地域のことを一緒に考える仲間になっていただけたらと思っています。

『災害が教えてくれた宇治らしいつながり』の発行に寄せて



宇治市長 山本 正

平成24年8月13日・14日に発生致しました「京都府南部地域豪雨」は、死者2名のほか、市内全域にわたり2000棟を超える建物被害など本市に大きな被害をもたらしました。本市におきましては、災害発生直後から、一日も早い市民生活の回復を図るため、国や京都府をはじめ、各関係機関・団体の皆様や多くのボランティアの方々のご支援を得て災害の対応に取り組むとともに、早期の本格復旧を図ることを最優先課題として取り組んでまいりました。

そのような状況の中、宇治市災害ボランティアセンターは、災害発生の翌日、8月15日には災害時の体制を整えていただき、全国各地からのボランティアの受け入れ、被害家屋へのボランティア派遣などに迅速に取り組んでいただきましたことに深く感謝申し上げます。

宇治市災害ボランティアセンターは、平素から宇治市社会福祉協議会を中心として、組織化にいち早く取り組み、実践的な訓練を実施されるなど、地道なご努力を積み重ねてこられたことが、今回の迅速な活動につながったものと思っております。

今般の災害により、わたくしたちは、あらためて自然災害が発生した場合に備えておくことの大切さを痛感させられました。そのためには今回の災害を決して忘れることなく、また、災害対応の経験を通じて得られました教訓を次世代に伝えていくことが必要であり、この「ふりかえり」を貴重な記録として皆様に役立てていただくことをご期待申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。



宇治市災害ボランティアセンターのこれまで

宇治市災害ボランティアセンターの設立以前も、災害は起こっていました。

これまで、宇治市社会福祉協議会は誰と、どんな取り組みをしてきたのでしょうか。

その活動は、1995年1月17日の阪神淡路大震災までさかのぼります。

宇治市社会福祉協議会や宇治ボランティア活動センターが中心になって、学区福祉委員会やボランティアの皆さんと活動、支援を始めました。

1995.1.17
阪神淡路大震災

阪神淡路大震災では、「阪神大震災支援センター」を設置し、支援活動を行いました。

2003.1.
福祉防災イベントがスタート

宇治市ふれあいの
とを考える機会が

2006.夏／秋
福井県集中豪雨水害／台風23号水害

福井県集中豪雨水害では、ボランティアバスを運行。

台風23号水害においては、宇治市社会福祉協議会の役職員で京都府北部の復旧支援。





まちづくり運動推進協議会が主催で、防災のこ
スタート。



2007.9
初めての災害ボランティアセンター
運用訓練

災害が連続して起こった昨年をきっかけに、災害ボラ
ンティアセンターの運用訓練を初めて実施。



宇治から東北にできること ～東日本大震災のボランティアバスの運行にかかわって～

東日本大震災の後、京都から東北を支援することを目的に立ち上げられた「京都災害ボランティア支援センター」は、5月頃から東北支援のためのボランティアバスの運行を始めました。

このバス運行の「第3陣」が宇治発着でできないか打診された時、現地での活動の機会が与えられたことへの感謝と、この重大な責務が宇治市災害ボランティアセンターとしてやり切れるだろうかという不安が交錯したことを思い出します。

実際に、ボランティア募集の方法、集約、応募多数の場合の抽選や、電話対応、参加者への説明会の準備、ボランティア保険の手続き、個人情報管理など、想像以上に大変でした。

しかし、災害ボランティア活動には現地の活動だけでなく、そのボランティアを支える体制が不可欠であり、それは宇治市災害ボランティアセンターで大切にしていることの一つでもあります。この取り組みを、運営委員やボランティアスタッフを中心に経験できたことは、今後につながる大きな財産となりました。



雷、大雨から一夜明け ～25日間のスタート～

2012.8.13夜～14 未明

出勤できた宇治市社会福祉協議会の職員から情報収集を始める。

宇治市災害ボランティアセンター運営委員は、自主参集を始める。

宇治市災害ボランティアセンター加入団体の宇治市視覚障害者協会からの電話。

「パニックになっている会員がいる。確認に行してほしい。」



2012.8.14 11時

宇治市災害対策本部より宇治市災害ボランティアセンターへ「災害時」体制への移行要請。



2012.8.14 11時半

協議により「災害時」体制への移行決定。

京都府南部地域豪雨災害 被害状況

宇治市公式ホームページより

(平成24年12月28日現在)

最大時間雨量	78.5mm (8/14 3時～4時)
累計雨量	311mm (8/13 7時～8/14 10時40分)
死者	2名
全壊家屋	30棟
大規模半壊家屋	7棟
半壊	162棟
床上浸水	779棟
床下浸水	1,296棟



(宇治市より提供)



宇治市災害 ボランティアセンターと ともにあった災害放送

エフエム
宇治放送株式会社

北川 隆平さん



災害報道と災害放送。コミュニティFMが行うものは、後者の災害放送です。被害状況よりも被害による影響を伝える事、これが今後の被災地、また地域住民に必要な情報ではないのか。

京都府南部地域豪雨災害では交通、ライフライン、行政機関の災害対応、被災者支援情報を中心に宇治市災害対策本部が閉鎖した10月1日までの約1ヶ月半にわたり行いました。宇治市災害ボランティアセンターの情報は被災者への直接支援につながるものとして、開設と同時に放送しました。1日の中でも変化するニーズに対応した放送ができた要因は日頃からの関係を築けていた事が大きいと感じました。

災害への備えの中に自助、共助、公助があります。特に巨大災害では「共助」の重要性が求められます。宇治市社会福祉協議会、宇治市災害ボランティアセンターが目指すものも共助。日頃からのつながりの中で互いを理解し共に協力できる関係が、災害時また緊急時の大きな力になると思います。



とまどい、不安、できるのか…
でも、みんな「宇治」の
まちのために…

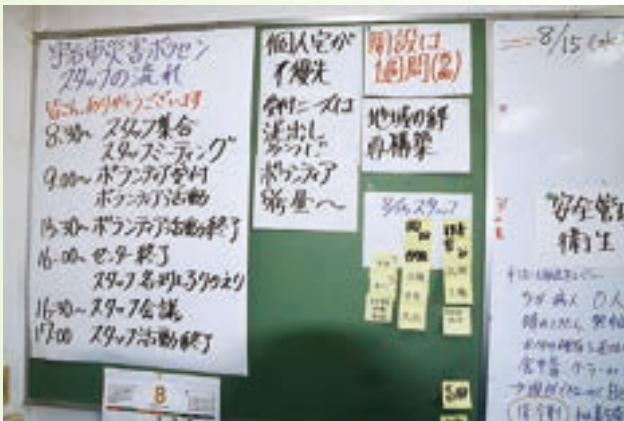
2012.8.14 午後

職員、運営委員で現地調査へ。

現地調査を兼ねて、宇治市視覚
障害者協会の会員宅へ支援。

2012.8.14 夕方

みんなで今後の活動展開を協議。





現地調査

～あの日の光景、
思いをふりかえる～

宇治市災害
ボランティアセンター

運営委員 そたに たける 曾谷 武



我が家は、幸いなことに豪雨による被害が無かったので、ほかの用事で福祉会館に行くと、豪雨で東宇治方面が大変とのことで、職員ら3名で被災地に向いました。被災地に行く前に、宇治市視覚障害者協会より依頼のあった2軒の被災会員宅での対応を行いました。

その後岡屋学区に入りました。被災していない知人宅に車を止め、被災地に向うと最初のところは、道路の泥を水で流しておられました。また、次のところでは多くの町内の方が道路に溜まった泥をスコップで寄せ集めておられ、泥を入れる土嚢袋を要求されました。弥陀次郎川の下を通って進むと悲惨な状況が目に入ってきました。道路には土砂が多く積もり、また道路が川となっていました。更に進むと3軒の住宅の中が川となっており大量の水が流れて出ていました。一帯はその時は水が引いていましたが、床上浸水が見て取れ、大変さを感じ福祉会館に戻りました。



昨日より今日、今日より明日へ

被災された方に、ボランティアの思いを届けたい。一日も早く、“いつも”の宇治のまちへ。

2012.8.15 ボランティア受付開始

宇治市災害ボランティアセンターでは、11時からボランティアの受け付けを開始しました。

ボランティア受付班、マッチング班（活動紹介班）、送迎班、資機材班、送り出し班、ニーズ把握班などを設けていました。

夕方のミーティングでは、運営委員、加入団体のスタッフ、応援の府・市町村社会福祉協議会職員、宇治市社会福祉協議会の職員が話し合い、みんなで改善をしていくことが繰り返されました。

この会議は毎晩遅くまで続きました。

そんな中、ボランティアを送り出す福祉会館前には、自然と「水分補給班」ができあがったり、送迎、資機材、送り出しが連動的に行われるなど、日々変化がありました。





ボランティア受付班にかかわって



京都ゆうゆうの里 中川 弘隆さん

京都ゆうゆうの里では京都府南部地域豪雨災害が発生した2日後の8月16日から16日間宇治市災害ボランティアセンターへボランティア受付班として参加しました。私自身東日本大震災ではボランティアを行う側として活動を行いました。今回ボランティアを受け入れる側としての活動は初めてで不安もありましたが、宇治市社会福祉協議会の職員や私たち加入団体のスタッフが自己紹介から始まる毎朝のミーティングで各々の関係づくりができ、不安も無くボランティア受付班の業務に携わる事ができました。ボランティアにこられた方々、ボランティアを受け入れる私たちが被災された方々に支援を行うという同じ目的を持ち、活動ができたと思います。今回の活動を通じて出会った方々と、後日会ったときに自然と会話できるようになりました。人と人とのつながりの大切さを再認識することができました。

SNSのつながり、団体の強みを生かして



NPO法人宇治大好きネット

齋藤 廣武さん

災害の状況を知ったのは14日午前9時のNHKニュースでした。早速、地域SNS「お茶っ人」を立ち上げて見ると、「(東宇治の)府道が泥だらけ、…川が溢れているみたい」との一報がありました。9時30分にお茶っ人の「災害コミュニティ」にトピックを立上げ、災害に関する情報提供をお願いしました。このつながりから、兵庫県の地域SNS「ひよこむ」から「古タオル」の提供打診があり、宇治市災害ボランティアセンターへ受け渡しすることができました。その後お茶っ人利用者さんからの情報や広くフェイスブック情報なども登録して、情報ソースとしての役割を担いました。またお茶っ人さん同士のつながりで、被災者への支援活動も行われました。

宇治市災害ボランティアセンターへの参加は、のべ日数で5日間でした。総務班に属しお手伝いさせていただきました。私自身の参加は24日、25日であり、センターの運営も安定してきた頃と思われ、ホームページへの書込み作業なども継続してやってこられた方に頼ることになりました。短い文章で的確に発信することは、難しいと感じました。